

# 活動報告書

報告者氏名: 森村美和子

所属: 狛江市立緑野小学校

記録日: H27年 2月27日

## 【対象児の情報】

○学年 6年 ○障害名 読み書きの困難

### ○障害と困難の内容

- ・板書を写すことに時間がかかり、自分で書いた字が読みにくい。
  - ・漢字を覚えることに苦手意識がある。
  - ・状況理解や一方的に話してしまう等コミュニケーションの課題がある。
  - ・衝動性や不注意があり忘れ物、物の管理等の生活面での課題もある。
- 上記のことから自尊心が低く、情緒が不安定になることもあり、意欲の低下がある。

## 【活動目的】

### ○当初のねらい

- ① 困り感の軽減や解消としての活用。
  - ② 「一人でできる」を実現するツールとしての活用
  - ③ コミュニケーションの課題や情緒の安定の道具としての活用
- 上記を通じて、自己理解を進め、自分に合った学び方を知り意欲をもつ。

○実施期間 H26年4月からH27年2月 ○実施者 森村 美和子 ○実施者と対象児の関係 通級担当教諭

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

- ・板書を写すことに時間がかかり、時間内に終わらないことも多く、書いた字も自分で読み返すのに苦労する。授業中の集中力の低下もある。
- ・漢字を覚えることに苦手意識がある。通級担任となら一緒に学習をするが一人で自宅では意欲がわからない。
- ・一方的に話してしまう等コミュニケーションの課題がある。
- ・衝動性や不注意があり、忘れ物、物の管理等の生活面での課題もある。
- ・家では意欲の低下。疲れて何もしたがらない状況。
- ・iPad やパソコンの操作は慣れており、興味がある。理科等得意分野の知識も豊富。
- ・自分を振り返り、言葉で表すことができる。

### ○活動の具体的内容

- ① 板書を写す → 「カメラ」
- ② 漢字を一人で学習する → 「常用漢字筆順辞典」
- ③ 忘れ物を減らす → 「ロック画面メモ」
- ④ つながりを支える → 「ByTalk」
- ⑤ 算数の学習 → 「Yahoo! あんしんねっと」 「YouTube」
- ⑥ 自己理解 → 「ロイロノート」 「PowerPoint for iPad」



## ○対象児の事後の変化

### ①板書を写す「カメラ」

本人の困り感は、写すのが遅く追いつかないこと、消されちゃうかもと思うと焦り、焦って書くので自分で書いた字が読めない、そして黒板の漢字が見にくい。何よりも疲れるということだった。このような状況なので当初から iPad に直接入力する方法も考えられたが、本人の「みんなと同じにしたい」や「書きたい」という気持ちを尊重し、対策として「板書を写真に撮って手で写すことで困っている事が軽減するのでは」と実験してみることにした。

クラスに iPad を持ち込むにあたり、問題点は「一人だけずるいといわれませんか?」「なくさないか?こわさないか?」ということ。本人との話し合いを重ね以下のような対応を行うことにした。(図1参照)

巡回校の先生には、4月当初に研修会を開き通級担任が説明を行った。クラスの友達には、「あまり大きさにしたくない」という本人の気持ちもあり担任の先生から説明をしてもらった。「A君は板書を写すことにとっても苦労してるの。iPadで黒板を写真に撮り写すことで困っていることが減るか実験中です。」と説明。クラスの友達の反応は「心配したけれど誰にもずるいといわれなかった」と話していた。



iPad をクラスに持ち込み、板書を写す際に使用するに辺り、通級で練習相談を重ね、それをクラスで実践するという形で進めた。クラスの実践の中で出てきた問題点はまた通級で相談し解決方法を考えて実践した。例えば、「シャッター音が気になる」と本人から訴えがあると無音カメラを試す、スピーカーにテープを貼るなどの対応をした。初めは担任の先生が板書を撮影することから始め、次に一番前の席で本人が撮影、次に座席の配慮なしにどの場所からも撮影しているうちにクラスの中で iPad を使用するのが当たり前になってきた。

### ②漢字を一人で学習する「常用漢字筆順辞典」

通級指導学級の個別指導の中で漢字の学習を行っていた。言語化やイメージ化、黒板に大きく書く、習字、間違いやすい字の分析、下じきや姿勢保持の道具の活用など様々な指導を行う中で、漢字のテストで合格点を取ることができるようになり自信をつけてきていた。しかし、「通級でなら勉強できるのに」という本人の発言や母より「家だと学習しません。やる気が出ない」ことがわかる。そこで一人でも漢字学習が自宅でもできるよう、Pad を家庭に持ち帰りアプリを利用し学習することにした。様々なアプリを模索する中で、一人での学習に有効だったのは、「常用漢字筆順辞典」だった。

検索がしやすい、大きく表示されるので見やすい、書き順を視覚的に示してくれる。読みや部首、熟語を確認できる事が本人にとってよかった点だった。もともと細部のミスが多かった本人の実態と合っていたのでこのアプリがうまくいったと考える。



### ③忘れ物を減らす「ロック画面メモ」「カメラ」

衝動性や不注意があり忘れ物が多かった。

そこで、時間割や持ち物を写真やロック画面メモのアプリを使いホーム画面に保存をした。自宅に iPad を持ち帰り、iPad を開くたびにいつでも時間割や持ち物が目に入り確認することができた。

そのことで忘れ物が減少した。



図3 忘れ物対策

### ④つながりを支える「ByTalk」

「通級は週に一度なんですよ。」

相談したくてもできないので悩みをため込んでいる」と本人より相談がある。そこで、「ByTalk」を利用しいつでも相談できる環境を設定した。「いつでも相談できるから不安が減った。」と話していた。



図4 By talk

### ⑤算数の学習 「Yahoo!あんしんねっと」「YouTube」

「算数のやり方を忘れてしまう」という困り感もあった。「思い出す動画があればいいんだけど」という本人の言葉からヒントを得て、自宅学習に算数の動画を活用することにした。「Yahoo!あんしんねっと」を使い、自分で検索、算数の動画を見て学習をした。有効だったのだが、自分の目的の動画までたどり着くのに時間を要した。そこで、在籍校の先生に協力してもらい、本人が必要とする算数の解き方の動画を「YouTube」にアップしてもらい、自宅学習に活用した。「知りたいことがすぐわかる！」と本人には好評だった。しかし、作り続けるには限界があるし、今後進学したらいつまでも作り続けられない。そこで、アプリを使い自分自身で作成していけばいいのではないかと模索中である。

### ⑥自己理解 「ロイロノート」「PowerPoint for iPad」

もともと通級で行っていた自分の困っていることを研究する「自分研究所」という活動を行った。本人と共同研究するというスタンスで、研究テーマを「iPad を使って自分の困っている事を解決できるか」とし、研究計画、困っていることの分析、実行、まとめ、研究発表を行うことにした。

研究成果は、毎学期、「自分研究所研究発表会」を行い、そこ通級の仲間に発表することにした。1学期は「ロイロノート」を使用し、クラスに iPad を持ち込んだことについて発表した。(図6) 2学期は、さらに詳しく伝えたいということ

で、「PowerPoint for iPad」を使用し(図7) 一人でまとめた。プレゼンテーションの題は「ビフォーアフター 僕が変わった理由」「なぜ僕は変わったのか」についてもまとめ発表をした。

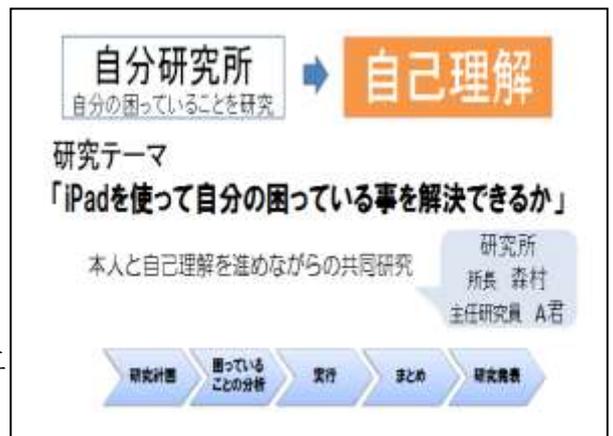


図5 自己理解・自分研究



図6 「1学期ロイロノートでの発表」



図7 「2学期パワーポイントでも発表」

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ○主観的気づき

- ・自分に合った学び方を知ることで、「自分ではできない」から「こうすればできる」実感に変わり「やってみよう」と思える意欲がではないか。
- ・自己理解を進め、苦手さを受容し自分を肯定的にとらえることができたことで情緒が安定し自尊感情の変化があったのではないか。

#### ○エビデンス(具体的数値など)

##### ①板書を写す

本人の分析によると「板書を写すのが楽になった」「消される心配がないから安心できる」「時間内に写しきれた」「疲れが減った」ということだった。担任の先生からは、今までは書き写す事をあきらめ、何もしないことで集中力も低下していたが、iPadで板書を写す作業をすることで授業中の集中力が増し、授業での発言も増えたという方向があった。

ノートの比較(図8)では、iPadなしとiPadありで本人が言った言葉は「自分の字が読める」だった。とはいえ、今後板書の量が増えとこの方法では難しくなることが考えられるため、別の方法も含めて検討をしていく。本人は、自ら将来を見越して「パソコン教室に通いたい」と通い始めている。

##### ②漢字を一人で学習する

一人でもやる気が出て、意欲が出て家庭での過ごし方が変わった。すぐに漢字が調べられる、書き順が見やすいことがよかった。一人で取り組んだ漢字テストで82点取ることができた。(図9) その後も継続し80点以上を取ることができている。また、漢検にもチャレンジし、6級(5年生修了レベル)を合格することができた。

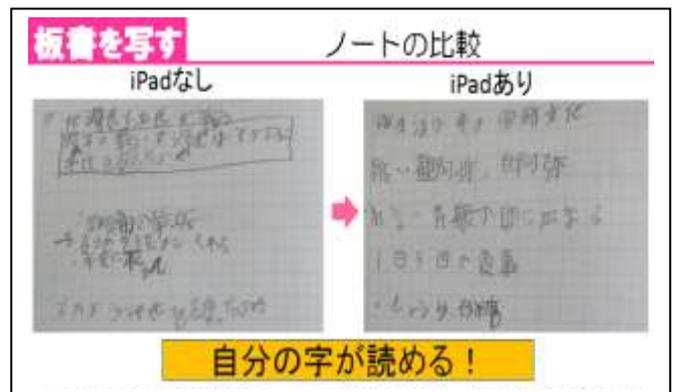


図8 ノートの比較

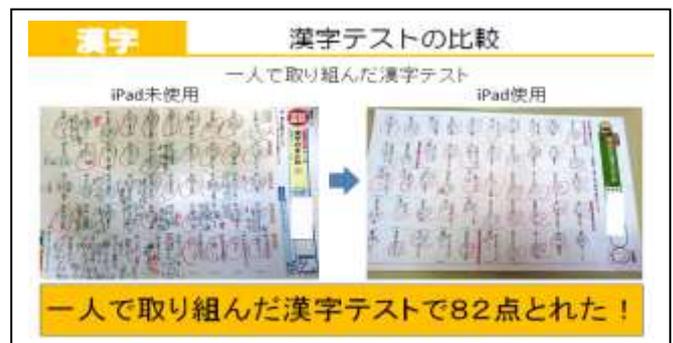


図9 漢字テストの比較

～全体を通じて～

保護者より、「明るくなり家でもやる気が出た」「心配事を口にするのが減った」「iPad との出会いは心強い味方との出会いになりました」と報告があった。担任の先生からは「授業で集中が増した。友人関係も良好、安定している」と言われた。(図10)

自尊感情尺度の変化(図11)では、4月と12月を比較すると「ポジティブ思考(やればできると思うようにしている)」「自己受容感(自分の欠点を受け入れる)」で伸びが見られた。

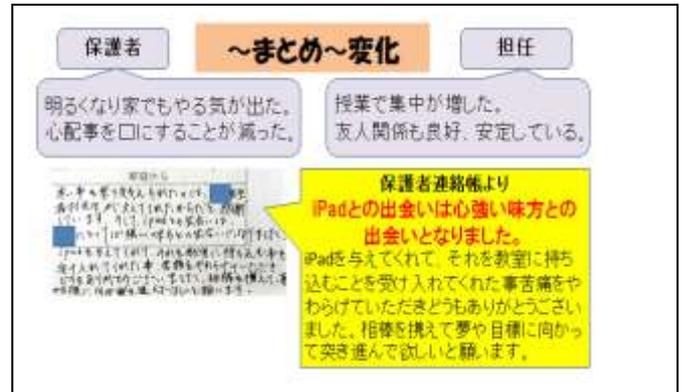


図10 まとめ

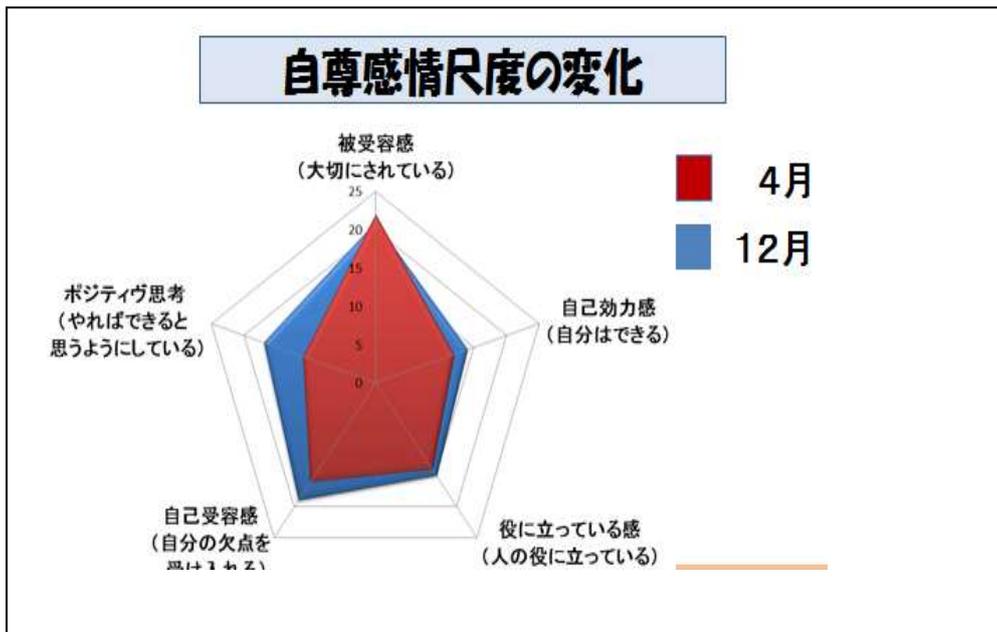


図11 「自尊感情尺度の変化」

○その他エピソード(画像などを含めて)

・「無理」から「こうすればできる」へ

「僕はみんなができる普通にできるあたり前のことができない。ぼくってバカなのかな？」とこの取り組みをする前には話していた。当初は、クラスに iPad を持ち込むことが不安だったこと、そして、自分自身の苦手さを受容することへの葛藤があったことが本人の言葉からわかる。(図12)

しかし、苦手さを表に出し受け入れてもらうこと、自分に合った学び方を知ったことで「自分ではできない」「だから無理」から「こうすればできる」に変化していったと考える。

**本人の言葉より**

本当は、クラスにiPadを持ち込むのすごく不安だったんだ  
 周りからどう思われるかもあるけど それだけじゃない  
 iPadを使うことは「僕は書けません」って  
 言ってるようなもの だから こわかった・・・

でも やってみたら 誰にも何も言われなかった  
 苦手を出しちゃったら逆に楽になったよ ぼくはぼく

自分ではできない、だから無理と思ってた  
 でも、こうすれば できる って今は思えるんだ

図12 本人の言葉

## ・相棒としての iPad と夢

本人が書いた絵手紙の iPad に添えられた文字は「相棒」だ。そして「今まで人に助けられていたから、いつかは自分が人を助けたい」という彼の夢の一つは「ホスピタルクラウン」。啓発絵本「ずっと言えなかったコト」ノートに書けない編は、彼に監修をしてもらって一緒に作った絵本である。



## ・今後の取り組み

中学校に進んでも相談を継続できるように、「ByTalk」を利用し、困ったことの相談や対応方法について検討していく。現在は中学校の進路が決まったばかりなので、どのような支援が必要かを本人と相談しながら決めていく段階である。自宅にある iPad や iPod を利用し、「引き続き自宅学習は続けていきたい」と話している。